天文界

第238號（第 21 巻）　（昭和16年）　4 月 號

巻頭　　隨筆

宇宙を觀る，人生を觀る

山　本　一　清

【南部の濱にて】

升崎外彦氏の御親切により，二月の初めから，研究と觀測を兼ねて，暫く紀州の南部（ミナベ）に滯留することにした．英子も保養のため，同行して來る．まことに靜かで，世の風塵を全く避け，宇宙を見つめ，又，空想に耽るのには絶好の土地がらである．

かねてから，自分は天體觀察のため，我が日本の內地に於いて，最も惠まれた土地を求めてゐる．之れは，自分一人のためではなく，今後，誰でも，眞面目に，忠實に，觀測を實行する人のために，良い土地がらの研究をして置く事は必要だと思ふからである．わが日本は，東亞の一角にあつて，地理上にも，地勢上にも，實にヴライイェティに富んでゐる．寒い土地，暑い土地，乾いた土地，濕氣に富む土地，雨雪の多い土地，少い土地，風の强い土地，風の無い土地，大氣の清澄な土地，汚れた土地等々．こうした種々の土地の中で，東京や大阪や，すべて“近代都市”の空といふものが，凡そ天體觀察に不適當であることは言ふまでもない．さすがに保守的な英國人や佛國人でさへ，國の文化の誇りである筈のかのグリニチやパリの天文臺で，愈々遠地に移轉しようかと考へるに至つた現代である．南加州のキルソン山でさへ，20年前に，既に空が悪くなつたといふ悲鳴を自分はきかされた．こうした運命を思ふと，天文臺の土地柄といふものは，よほど遠い將來をも見越して，撰定せねばならぬと，考へさせられる．

今一つ，（誰も餘り大きな聲で言へないけれど），觀測の體驗者の側から考へなければならぬ點は，天文臺の土地の氣候の問題である．自分は先年，米國のヤーキース天文臺に一ケ年の生活を經驗して，あの極端から極端までの猛烈な氣候と鬪ふ觀測者の苦勞のことを考へさせられた．あのヤーキース天文臺が，ジュネーヴ湖畔でなくて，少なくともイリノイ州の南邊にでもあつたのならば，

觀測者は如何ほど大きい能率を擧げたであろうかと，思はざるを得なかつた．

我が日本に於いて，東京や京都の天文臺は“大學附屬”といふことに囚はれてゐるため，天體觀測の土地柄としては，全く不便不適なものであること言ふまでもない．緯度觀測所も亦，諸外國との關係上，心ならずも晴天の餘り多くない水澤が撰ばれてゐる．只，此の間にあつて，倉敷の天文臺と，瀨戸の黃道光觀測所だけは，全く人生の約束に拘束されず，良い天空といふ條件のみを求めて建てられたものである．實際，この二つの天文臺の觀測者たちは，過去に於いて，果して其の惠まれた土地柄を利用して，成績を擧げつゝある．

しかし，自分は，其れにも拘らず，尙ほ一つの條件を求めて，多年考へぬいた．それは，（長い年月を通して，觀測の體驗者のみに了解されることであるが）今少し溫暖な冬期の夜間觀測が爲し得られる土地を!!　といふことであつて，近年，漸く自分は此の見地から二つの解決を獲たやうに思ふ．其の一つは紀州であり，今一つは關東の房州地方である．中にも，自分は今直ちに房州の土地を實地について研究する暇は無いけれど，紀州は比較的に近い所であるから，是非，一度實地に當つて見たいものだと思つてゐた．——はからずも，今回，南部の町の郊外に暫く滯留して，肉眼と器械と兩方面から，實地に試驗をする機會を與へられたのは，感謝に堪えない．

いろんな都合もあつて，永い滯留は今は出來ないが，せめて三月末まで此の南部に於いて，自分は試驗を續けたいと思ふ．南部は和歌山市から汽車で約2時間の距離であり，田邊の少し手前の，半漁半農の田舍町である．人口は約六千と言はれ，直接に黑潮の海に臨んで，夏は涼しく，冬は殊に溫暖な土地である．二月の寒空に，一日中，全く“火鉢”が不要であるのには，自分も驚いた．幸ひ，小槇氏其の他の方々も來訪されて，紀州一帶の氣候のことなど聽かして頂いたが，空模樣から見て，必ずしも更に南へ進むことのみが良い條件でもないらしい．結局，この南部あたりならば，雲，雨量，風，氣溫などの諸點から考へて，天文觀測上に最も適した土地の一つであると思はれる．尙ほ今少し觀察と研究をして，結論を獲たいと思ふ．

▶…學研で天文用語の委員會が出來たとかで，二三の人が氣にしてゐるが，何も今更，あはてる必要はない．この問題については，本誌上に於いて，吾人は十數年來一應論じ盡したのであるから，腹は決つてゐる．

“今からでも遲くない”といふ言葉が，吾が國ではかの2・26事件以來，一時流行した．しかしながら，何時，いかなる場合，いかなる問題に對しても“今からでも遲くない”では無いのである!! 天文用語の問題に關する限り，實は“今はもはや遲い!!”のである．永い間，天文用語は無統制の狀態にあつた．そして，其の間に，一般大衆の天文熱は勃然と起り，十年以前まで寥々たる有樣

で，淋しかつた天文關係の書籍や其の他の出版物が，いつの間にか，汗牛充棟も雷ならざる有樣となり，プラネタリウムまでが二つも建設されて了つた盛況である.（今日，世界廣しと雖も，プラネタリウムを二つ以上持つてゐる國は，ドイツのほかに，イタリヤと，ロシヤと，米國のみであることを思へ!!）こんなにまで來て了つてから，今更，放任されてゐた天文用語を整理するなどといふことは，到底出來ない相談である．此等の事狀が認識されない所に，東京あたりの學究たちが居る．“何故，もつと早く，之れに着手しなかつた?!”こうした責任問題のみが，今は殘るのである，——將來の見えない人々は，時々，こうした“取り返しのつかない”ことをして了う．

讀者よ，マア何も，あはてる必要はない．學術のことは，命令や法令で動くものではない．只，一旦，こんなに亂雜になつて了つた天文用語も，宇宙進化の一部として，漸次に改善されて行くのだ．しかし，十年前に着手しなかつた此の用語整理の失敗は，多分300年も經つうちに整頓されるだらう．

しかし，尙一言，大局を見給へ！他の學術と比べて，天文用語の不統一は決して夥しい數に上るものではない．今日，一定の原語に對して，まち々々の術語が用ゐられてゐるのは約20語ぐらゐに過ぎない．普通の天文用語の95%までは，事實上，統一されてゐるのだから，決して之れは天下の大問題といふほどのものではない．餘りイラ々々せず，又，コセ々々せず，寧ろのんびりとした氣持ちで，こんな問題は，ときどき思ひ出せば宜しい．

一般の學術界を見給へ！Science や Wissenschaft に相當する日本語が，“理學”と“科學”と二つあつて，何れも相讓らず，行はれてゐるではないか?! 之れだつて，“今はもはや遲い!!”のだ．例へば，茲に學術用語委員が出來て，之れを統一しやうとした場合に，

“理學博士”	の代りに	“科學博士”	と改め，
“物理學”	〃	“物科學”	〃
“心理學”	〃	“心科學”	〃
“自然科學”	〃	“天然理學”	〃
“科學博物館”	〃	“理學博物館”	

と改めることに，人々は直ちに同意し得るや，否や?!

くり返して言ふ．“今からでは，もはや遲いのだ”．

所　　感

歐洲戰も　今の我には　小さき事か
百光年の　星仰ぎつゝ

横濱　渡部伊佐武